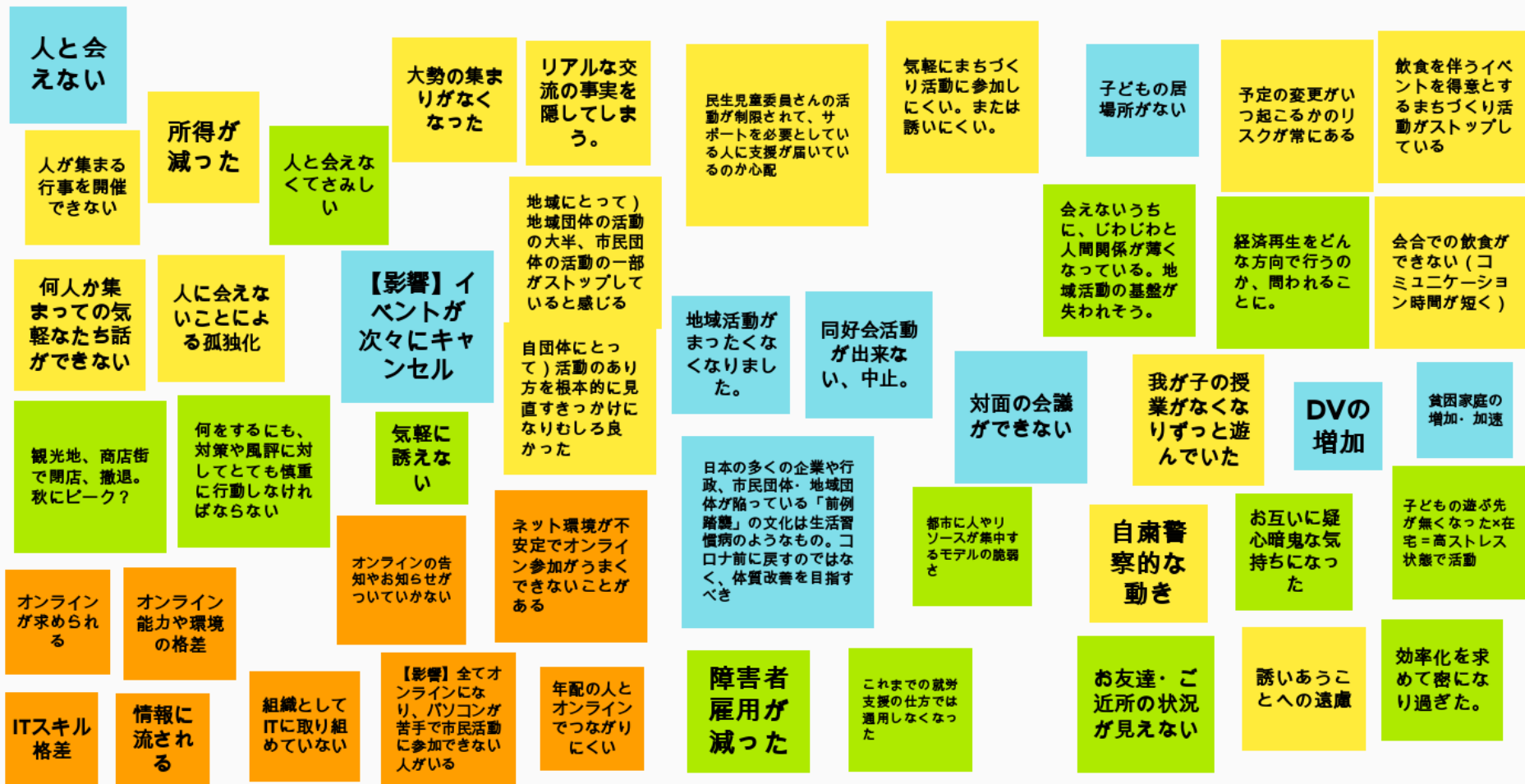


まちづくり活動を活性化する！市民トークセッション①

コロナに負けない持続可能なまちづくり活動に必要なものは？

コロナがもたらした、私たちの活動や地域への影響は？浮き彫りになった課題は？



まちづくり活動を活性化する！市民トークセッション①

コロナに負けない持続可能なまちづくり活動に必要なものは？

1 班

コロナがもたらした、私たちの活動や地域への影響は？浮き彫りになった課題は？

活動内容が整理されるきっかけになるという意見が出ていたのが驚き。ピンチはチャンスに。

コロナで感じた危機感を忘れずに今後の活動を考える

外出禁止の空気がある中で。地域の学区単位の活動にとって何が必要？逆に何が非必要？

本当に困っている方の姿が見えないことが課題

地域企業の状況が厳しい。今まで、地域のイベントの協賛金など当たり前に出していたが、これからは難しくなるかも。

家族関係を見直すきっかけになった。子どもの送り迎えなど

見直すきっかけにしないといけない

前例踏襲する部分と、変えないといけない部分。地域にとって何が大事か考える機会が必要。

地域の場合は、苦勞を分かち合いづらい

新しい取組にどう移行するか

外圧もポジティブにとらえれば、改善のチャンスになる

取捨選択がより重要に。本当に困っている人は誰なのか。焦点を絞った議論の必要あり。

自治会・町内会の活動。地藏盆など中止になっている。集まる機会がなくなっている。

家族であれば、困りごとを分かち合うきっかけはあるが・・・

まちづくり活動を活性化する！市民トークセッション①

コロナに負けない持続可能なまちづくり活動に必要なものは？

1 班

私たちが、これからも活動を続けていく上で、自団体・まち・行政に必要な仕組みや取り組み、サポートはなんだろう？

京都市の財政が厳しい中で、いつまで資金的な支援ができるか？

ワークシートの提供。こういうふうに考えていきましょうという支援の形。

要支援、防災など必ず必要な部分と。体育祭などのスポーツ同好会の部分は切り離して考えてもよいかも。

団体の本質的な活動の意義を伝えなおすサポート。

具体的なサポートの前に、団体や組織としての問題意識の共有が必要では

オンライン教育などの大枠は行政としての方向性を示したほうがよくなるのでは

アクリル板、消毒液でなく、WIFIなど長期的に必要なものは

高齢者へZOOMの使い方を教える機会、サービス。

・ お金が困っているところ・ノウハウに困っているところ（オンライン等）

お金をもらうための思考に陥る。打算にならないように

行政からの補助金をもらうことが目的になってしまっている。本当の目的、考え方がぶれないようにしないといけない。

市民相互の支援を広げていけると良い

ソフト面の支援が、お金以上に重要。

飲食店や、ゲストハウスが無くなることで、仕事が無くなる人がいる。雇用の維持重要。

京都は観光客ありきの町だったが、京都の中で回す仕組みを考える必要がある

99・7%外国人観光客が減っている

活動の方向性ありきの、どんなサポートが受けたいかの順番

団体としての活動の方向性を整理する役割を担う人材。サポート役がいると良い

商店街において、先に入った後にはいったで、パワーバランスがある。内部だけで話しても変わらない部分がある。外部からの考えを取り入れるチャンスでは

市民が市民を支える市民サポーター派遣制度のような枠組みが重要。

困っている団体に、外部のファシリテーターが入ることが重要。

地域限定クーポンのように、地域で経済が回る仕組みを。

京都市オンラインの導入もつとがんばろう！部署間での温度差。

やらないと仕方ないからやっている団体もあるのでは。そういった団体の必要性を考えてもよい。京都市内にはたくさんある。

結局はトップダウンで決まってしまう部分もあると思うが・・・

WILL、CAN、NEEDのフレームワークを使ったワークを実施。

高齢者もオンラインが使えるようになれば・・・利用のサポートする。

オンラインサービスなど、最初のハードルが高いだけで、きっちりお伝えすると案外便利さを感じてもらえる

いけてない団体が、自然消滅していく、いけている団体が自然と残っていくように。例えば、団体内部の関係性ができていない団体は多く

まちづくり活動を活性化する！市民トークセッション①

コロナに負けない持続可能なまちづくり活動に必要なものは？

2 班

コロナがもたらした、私たちの活動や地域への影響は？浮き彫りになった課題は？

オンラインで雑談できなくなり、パフォーマンスがおちた！

日本の高齢者福祉施設はクラスターにならないように頑張っている？

福祉施設でできるオンラインとできないオンライン

高齢者とかかわる仕事では感染にかなり過敏になる

感染から命を守るために精神的、社会的健康が阻害される。。。

事業者はクラスターになりたくない！という組織を守る考え方を重視してしまう・・・

福祉施設で感染対策のために行動制限、生活の自由が奪われる→QOLが下がってしまう

社会がすこしずつ慣れてきている？

高齢者はステイホームによって身体的、精神的に虚弱になる可能性はある

まちづくり活動を活性化する！市民トークセッション①

コロナに負けない持続可能なまちづくり活動に必要なものは？

2 班 私たちが、これからも活動を続けていく上で、自団体・まち・行政に必要な仕組みや取り組み、サポートはなんだろう？

ユーザーインタフェースをより広い世代が使えるようになっていく

高齢者等のITサポートが必要

支援を受ける方は環境や情報がないことが多い

なるべくシンプルで手順の少ない方法でオンラインでつなげる仕組みが必要

地域通貨のような形でサポートが必要な人と支援できる人をマッチング

コミュニティ内の課題や強みをコミュニティ間で共有できる仕組みがまちにあればいい

高齢者が一歩を踏み出すところを地域でサポートして、そこから先はIT企業等もサポートできる

行政がオンラインを知らないとしても推進できない

コンテンツ（何がしたいか、何を残したいか、どうつながりたいか）を考える

閲覧板の共有等、事務的な部分は便利になっている

情報とスキルの共有

通信環境、機器が整っていない部分の経費や情報をどう活用するか

オンラインも含めたまちづくりの情報が共有できるように

ガイドラインが必要

地域とITをつなぐ場・人の役割

そもそも地域が「必要」と感じていないとアクセシしない

今は過渡期。。。

リアルでは雑談、出会いの場としての機能があった

目線、表情、雰囲気、空気感

オンラインで再現できることはやってみる

リアルで会うこと、対面の意味を見直す！

人間関係の構築、チームビルディングにおいてオンラインは人の情報量が少ない

五感を使わないと信頼関係が構築しにくい

対面でやることにこだわることもある

育成、伝承、教育はリアルが対面による場合も重要

学生さんとの関係を作るときに積極的に話して欲しい

オンラインでの人間関係の構築はファシリテーション能力が必要になる

まちづくり活動を活性化する！市民トークセッション①

コロナに負けない持続可能なまちづくり活動に必要なものは？

3 班

コロナがもたらした、私たちの活動や地域への影響は？浮き彫りになった課題は？

地域イベント
の中止

配布物のポ
スティング
のみ

オンライン
での開催・
実施方法も
模索中

東山区でアンケート調
査を行った。町内会
25/35でネット環境があ
る。何らかのWeb会議
経験ある方も多い。

イベント・行事がなく
ても世の中は問題なく
進んでいくように見え
る。一方で、イベン
ト・行事を求めている
方もいる！

京都市で地域サ
ポートを行って
いる。2020
年3月以降、相
談内容が変わっ
た。

コロナをきっか
けに、つながり
が薄い所は切れ
て、イベントや
活動をやめてし
まっている。

地域性が両
極端になり
つつある。

関係性
：薄い
⇔濃い

新型コロナもインフル
エンザと同じ扱いにな
れば、元のような生活
に戻るのではないかと
も思う。

お風呂で無くな
る高齢者が、年
間で19,000人と
の統計データも
ある。

東京はテレワークが進
んでいる。同じプロ
ジェクトでリアルに
あったことがない人も
多数いる。

体育館が個人利
用できない。団
体利用のみに
なっていて困
る。

東京は住みにく
くなった。田舎
の実家に帰ると
きに東京から帰
省しにくい。

マスクで苦しい
と、外す方もい
る。人によって
危険と感じる度
合いが違う。

メディアの報道
方法で人々の情
報の受け取り方
が変わる。

まちづくり活動を活性化する！市民トークセッション①

コロナに負けない持続可能なまちづくり活動に必要なものは？

3 班

私たちが、これからも活動を続けていく上で、自団体・まち・行政に必要な仕組みや取り組み、サポートはなんだろう？

自治連合会の活動が止まっている。しかし地域情報がほしい方がいる！

活動をする、炎上する！叩かれる！それが問題。活動をできない要因。

高齢者が多い地域であるが、何らかの地域交流を楽しみにしている方が多い。

高齢者補助→拠点をつないで、健康体操教室をオンラインで9/2に実施する。

学区に均等に支援はできないと思う。各学区に合った支援が必要。

高齢者見守り・地域会合に特化した支援とか

アクリル板や消毒液の整備はOK。WiFi環境や端末の整備ができていない。行政に支援してもらいたい。

Zoomの使い方を広げるのに、地域に入って草の根で少しずつ広げていく支援が必要。

篠原さんのような方が、地域で増えていくといい。

パッシングをされるのが嫌だからイベントしないのはよくわかる。

どうしてもすること、する必要のないことを精査しても良いと思う。

市は、コロナ対策の支援は行っている。

35町内中25町でネット環境がある。8町内会でWeb会議実施している。5町内会はネット環境がなくリアルで対面会議実施。

高齢者でスマホを持っている方も意外と多い。調査してみた方がよい。

希薄化にどう支援をしていくのが難しい。

Zoomの使い方を含めて、オンライン化を進める人を広げていく支援が必要だと思った。

東京から横浜に帰るのは大丈夫だけど、田舎の山形に帰るのは大変。祖父母との交流も気軽にできない。

ワクチンができて数年で事態が収束するとは個人的に思えない。

小学校で日傘禁止とか、近所で注意してくる方もいる。コロナを機に、行政にもいろいろとメスをいれてほしい。

どんな活動を続けるべきか。それを話し合う場をサポートしてほしい。

つながりを大事にしたいと思った。体力的なことと精神的なこととバランスが大事。

本質的には、何らかのつながりがほしいと思っている。やるべきことの精査も必要であるが、根底にはつながりを求めていると思う。

全員が一律で同じことをする必要はない。

ITサポートを機に、自治連合会に入る若者は増えた？

自治連合会に若い方が入ってきて頂いている。若い方からは柔軟な意見が出てくる。

止めてしまった方が楽なことも多いが、なんとか進めるべきことは進めたい。

止めることと進めるべきことの基準や方針を明確化できると良い。そのファシリがあると思う。

市内の高齢者地域でネット環境やスマホ利用率とかを調査してみても、その結果が使えるのでは？

まちづくり活動を活性化する！市民トークセッション①

コロナに負けない持続可能なまちづくり活動に必要なものは？

4 班

コロナがもたらした、私たちの活動や地域への影響は？浮き彫りになった課題は？

世代間で、活動への熱量の差が出てきている

オンラインが苦手

祇園祭の町内の保存会（地域の若者を中心とした団体）をしているが、今年は祇園祭そのものが一部中止に。それに代わる活動を模索していたが、ほとんどが高齢者の方でネットがうまく使えないので、情報発信に難しさがあった。

ネット販売に初めてチャレンジしたりもしたが、これまで当たり前になっていたことができなくなった時に、世代間で差が出てしまう。

活動が中止になったが、若者が仕事が無くなって困っていたので、直接お野菜をお家まで届ける「フードパントリー」をしていた。

子どもたちには会えなかったけれども、親には届けられた、そこで家庭の状況がよく見えた。仕事が無くなった現状をよく知るきっかけになった。

婦人の友の会（家事、家計、料理を勉強する）に所属していて、主力は60代中心。もともとデバイスを持っている、持っていないや、使える、使えないで格差が出てしまった。そこをサポートしたいが、普段の仕事があって出来ず、ジレンマがあった。

カフェもお休みにした。日頃高齢者の人たちが毎日来てくれていたが、その人たちの居場所が無くなってしまった。街で遭遇すると、高齢者の方々は、テレビの情報を嚙呑みにして楽しく過ごすことができている状況を感じた。

パソコン教室もやっているが、Zoomの使い方が高齢者の人たちに覚えてもらいたいと思っているが、そもそもPCを持っている人が少ない。

スマホでも契約プランが低いものになってしまっていたり、すごくハードルがある。でも実際つながると、とても喜ぶ。最初のハードルさえ超えられたら。

まちづくり活動を活性化する！市民トークセッション①

コロナに負けない持続可能なまちづくり活動に必要なものは？

4 班

私たちが、これからも活動を続けていく上で、自団体・まち・行政に必要な仕組みや取り組み、サポートはなんだろう？

京都は観光客がいて、初めて回っている街だと、改めて実感した。そこで働いていた人が一気に雇用が無くなった。自分たちで経済を回せるようになれば良い。

飲食店：テイクアウト出来ているところは売上げは下がっていない。むしろ上がっているところも。

地域で経済を循環させる（地域の方で、自ら経済を生み出し、使う）

街のおじちゃんややっているような店は、それに乗っていない。

活動のための補助金

その補助金を取りに行くことが目的となって、活動が打算的になってしまう面もある

京都市が先にオンライン化を！！

組織の枠を超えて、連携していく「横の繋がり」のなかで、一緒にコロナの状況乗り越える

コミュニティ間の連携で、「ITリテラシー×得意なこと」で助け合いの関係性ができれば。

教育の面から、「この際」学校はオンライン化

地域通貨：地域のゲストハウスやオフィスで使える。それに関わる仕事で雇用を生み出す。

本来の目的や意義を考えるサポート

活動が「何が大事？」「何を残していく？」と言った、議論をしていくサポートが欲しい。

自分たちが立ち上げた組織ではなく、前例踏襲の組織の場合、「では自分たちの組織はどうあるべき？」と考えにくい。続けることが一番大事になりがち。

高齢者向けのオンライン講座を、京都市の事業でもやっている。でも、それがあってもなかなか「やってみよう！」とならない。

祇園祭の保存会：毎年同じやり方で続けることで、歴史に傷を付けない。その時のトップや学区長次第になっている、新しい考えに対して「それ良いやん」となるかどうか。それが難しさになる。

特に高齢者の「最初のハードル」

まずは、「実際に使ってみる」→そこから「そんなに便利なんだ！こんなことできるんだ！」

もっと能力をローカルで発揮するために、行政が力をいれる

子ども食堂を利用しているシングル世帯に、その地域通貨を配る。

子どもたちが高齢者のお手伝いをしたら、地域通貨をもらえる。

活動をしたことによる、パッシングを恐れている

行政から、パッシングされないサポート＝医学的な視点からの、感染予防の指針は出して欲しい。が、主体性は大事にすべき。

地域益：目的は変えずに、時代に合わせて、やり方は変えている。＝アイスブレイクに2年かける

この際やめようかとなってしまう